

第11号 令和7年7月

みんなの南アルプス

発行 南アルプスを未来につなぐ会 電話 054-221-2963（事務局）



荒川岳 赤石岳東尾根（一般財団法人南アルプスみらい財団提供）

第11号発行

令和7年7月11日に南アルプスを未来につなぐ会の運営会議を開催しました。運営会議では、つなぐ会はこれまでの活動により、南アルプスの可能性を広げる成果を上げ、当初の役割を果たしたことから、会としての活動を終了することを決議しました。今回は、このことについてお知らせします。

つなぐ会は活動終了となりますが、南アルプスでの取組はこれで終わる訳ではありません。つなぐ会が実施してきたこの会報誌の発行などの取組は、理念を共有する県や（一財）南アルプスみらい財団、南アルプス学会等が引き継いで実施していきます。

このほか、南アルプスへのアクセス改善や（一財）南アルプスみらい財団、南アルプス学会が進めている取組などについて、お知らせします。

南アルプスを未来につなぐ会の活動終了

「南アルプスを未来につなぐ会」は、南アルプスの貴重な自然環境を広く世に知っていただき、保全と利活用の調和を図りながら、より良い形で未来につないでいくことを目的に、令和3年7月14日に設立しました。

つなぐ会は、南アルプスの魅力を広め、未来を考える取組として、設立以降毎年、公開シンポジウムを開催してきました。さらに、令和6年3月には、南アルプスからの恩恵を認識し、次世代につなぐため「南アルプスが輝く未来デザイン」を公表し、加えて令和7年1月には、南アルプスの山麓で活動する若手を対象にチャレンジにつながるワークショップ等を実施する「いかわね会議」を開催するなど未来デザインを踏まえた取組が動き出しています。



設立記念シンポジウム
(令和4年2月19日)



また、つなぐ会の設立以降、令和4年2月には南アルプス学会が、令和4年8月には（一財）南アルプスみらい財団が設立され、令和7年7月12日には南アルプスユネスコエコパークミュージアムが開館されるなど、南アルプス地域での取組は着実に広がりをみせています。

未来デザインの策定に加え、具体的な取組が動き始め、つなぐ会は南アルプスの可能性を広げる成果を上げて、当初の役割を果たしたことから、令和7年7月11日に開催した運営会議において、「令和7年7月13日をもって、つなぐ会の活動を終了すること」が承認されました。

これまで、つなぐ会の活動に御参加・御協力いただいた皆様に、謹んでお礼を申し上げます。

つなぐ会が実施してきた情報発信や取組等は、理念を共有する県や財団、学会等が引き継いで実施していきますので、引き続き御協力をお願いいたします。



第1回いかわね会議
(令和7年1月17日)

～南アルプスの未来へ向けて～

南アルプスを未来につなぐ会 会長 山極壽一



南アルプスを未来につなぐ会が発足して4年が経ちました。この間、世界では様々な出来事がありました。気候変動はますます激しさを増し、旱魃や森林火災、大雨や洪水などの被害をもたらし、日本でも能登半島沖の地震や岩手県大船渡市の山林火災などで多くの被害が出ました。しかし、南アルプスは変わることなくその威容を誇っています。日本列島の脊梁山脈の中心となるこの地域は、はるか昔から日本人の畏敬の念を集め、自然と人とが調和しながら暮らす文化を育ててきました。

しかし、近年の地球温暖化や自然災害によって動植物相が大きく変化し、この地域に固有な高山植物やライチョウなどの貴重な生物が絶滅の危機に瀕しています。さらに過疎化によって地域の産業や伝統行事を維持することや南アルプスの美しい自然と貴重な文化を未来に受け渡すことが難しくなりました。

こういった事態を打開し、自然にとっても人々にとっても幸福な未来を拓くために、これまで私たちはいくつかの試みを実施してきました。会長、副会長、理事たちが川根本町を訪問して資料館やまびこを視察し、地域おこし協力隊員と話し合い、千枚岳に登山しました。また、4回にわたって公開シンポジウムを開催し、山岳ガイド、エコツアーリズムガイド、登山家、環境財団、地域起こしベンチャーなどの専門家と南アルプスの魅力とそれを生かす未来の取り組みについて多くの人々と話し合いました。

そして、これらの話し合いで出てきた課題や取り組みについて南アルプス全体構想を理事会で議論し、「南アルプスが輝く未来デザイン」を策定し、一般の方々に公表しました。それぞれの紹介記事に魅力的なイラストを配置しました。女の子の質問に答える天狗、ライチョウ、おじいちゃん、てしゃまんく（地元の英雄）などが登場し、子どもたちでも楽しみながら読める作りになっています。

今年（令和7年）になって、井川地区と川根地区の人々から成る「いかわね会議」が開かれ、本会の構想が少しずつ実施に移される運びとなりました。当初の目標は達成されたということで、本年でこの会を閉じようと思います。これまで本会に参加してくださった方々、支援してくださった方々に深くお礼を申し上げます。今後、南アルプスの貴重な自然と文化がますます手を取り合って発展することを心より願っております。

～これからの南アルプスと水～

南アルプスを未来につなぐ会 副会長
南アルプス学会 会長

佐藤洋一郎



私がかつて在籍した京都の研究所（総合地球環境学研究所）では、世界各地の水問題の解決に資する研究がさかんに行われていました。わたしのプロジェクトでも、中国のタクラマカン砂漠での灌漑による塩害の歴史や、大阪平野の洪水への対処策など各地の水問題を取り上げましたが、多くの問題に共通していたのが、「水をめぐる何らかの活動は、時間が経過してから、予期しなかった場所に想像もしなかった形で新たな問題を引き起こす」ということでした。とくに地下水の動きは、現状の把握も未来の予測も困難で、細心の注意を払おうとも将来何が起きるか完全にはわからないのです。

このことは現代にも通じる問題です。埼玉では、地下に埋設した下水管の老朽化で道路が陥没したために、たまたま通りかかった車の運転手が亡くなりました。復旧工事にはとても長い期間と膨大なお金が必要と試算されています。リニア中央新幹線の工事では、岐阜県で予想だになかった井戸枯れが起きました。わたしたちの南アルプスでも今後の工事で何が起きるか、まったくわからないのです。何しろ、そこは年間平均4mmも土地が隆起しつつあるといわれるくらい不安定な土地でもあります。

むろん、だから工事を差し止めれば済むというわけではありません。ただ、20世紀後半の日本の経済発展の歴史がそのまま公害の歴史でもあったことは大事な教訓です。「公」害とはいう語がしみじみ示すように、行政や、あまつさえ司法までもが、厳格な因果関係の証明を、不利益を被った側に求めたことが被害を拡大したともいえます。「誰も取り残さない」という現代の国際的なスタンダード（SDGs）に、明らかにもとる判断だったといえましょう。

南アルプスが「手つかずの自然」を残しているのは、ひとえに山が深く今なおアプローチが困難だからです。そしてそのことが、県民でさえ南アルプスの価値を知らずにいる理由でもあります。そこで何が起きているかに多くの県民が関心を持ち、行政はそれに基づいて実態をきちんと調べ、仮にそれが不都合であろうとも調査の結果を公表するという姿勢が必要です。わたしは、県がこうした姿勢を堅持されることを微塵も疑うものではありませんが、最後に以下のことをあらためて申し述べておきたいと思います。南アルプスに降り注いだ降水は、蒸発分を除けばすべてが遠州灘から駿河湾の静岡の海に流れ込み、人びとのいのちと暮らしを支えています。そして、直接・間接に恩恵を被る人口は、県民の半数を超える200万人にも及んでいるのです。

副会長寄稿

～南アルプスをさらにおもしろく～

南アルプスを未来につなぐ会 副会長 高野孝子



2022年夏から「南アルプスを未来につなぐ会」の理事として加わりました。

ちょうど「南アルプスが輝く未来デザイン」の議論が始まっていて、毎回、各分野の専門家の方々の指摘が興味深く、高いレベルの成果物が生まれてくるプロセスはワクワクするものでした。

実際に静岡市井川地区と川根本町を訪ねたこと、千枚岳を目指して一帯を見学したことは宝物です。「南アルプス」は言葉としてはよく知られていますが、そこにある暮らしや歴史、自然環境に具体的に触れることで、価値を初めて立体的に理解することができました。

この間に、（一財）南アルプスみらい財団、南アルプス学会が立ち上がり、ふじのくに地球環境史ミュージアムとも連携して、さまざまな活動が展開されてきています。井川地区と川根本町に在住する若手を対象とした「いかわね会議」は、まさにこれからを拓く存在となるのではないのでしょうか。自由な発想で新たな取組を生み出し、互いにサポートし合い、他の諸団体とも有機的に関わりながら、南アルプスをさらにおもしろくしていってくれることを期待しています。

南アルプスの情報発信

南アルプスを未来につなぐ会は活動を終了しますが、つなぐ会が行ってきた会報誌等による情報発信は、つなぐ会の事務局であった静岡県自然保護課が「南アルプス友の会」として、これまでどおり「みんなの南アルプス」の発行を継続します。

これまで、つなぐ会会員登録時に情報提供可とした方には、メールで会報誌発行のお知らせをしておりました。「みんなの南アルプス」発行のお知らせメールは自動継続とさせていただきますので、継続を希望しない方は、お手数ですが、その旨を県自然保護課宛て【shizenhogo○pref.shizuoka.lg.jp(○を@に変更してください。)]に返信してください。

連絡先は会報誌等の情報発信以外には使用いたしません。

南アルプス学会研究助成

南アルプス地域の自然、文化、民俗、社会、産業など多様な領域を横断した地域学「南アルプス学」の構築に向けて、南アルプス地域における研究に対して助成を行っています。

令和7年度は、15件の応募をいただき、令和7年5月20日開催の南アルプス学会運営委員会において8件が採択されました。

R 5 採択	R 6 採択	R 7 採択	計
7 件	8 件	8 件	23件

研究成果は、今後、南アルプス学会主催のシンポジウム等での発表を予定しています。

<令和7年度採択>

代表者	所属等	研究タイトル
一色 智仁	東北大学工学研究科	南アルプスにおける山岳建築の歴史
谷口 ジョイ	静岡理工科大学	南アルプス井川の言語と文化を継承するための研究調査
周 玉琴	東北大学情報科学研究科	南アルプス山村地域における関係人口としての他出子とイエ・ムラ・チイキの共同性の変容と再構築
川上 香	総合研究大学院大学文化科学研究科	南アルプス井川地域における在来作物の栽培状況と利用
今井 伸夫	東京農業大学森林総合科学科	南アルプスの亜高山帯最高所に成立した針葉樹林の生態解明
伊藤 舜	静岡大学理学部	南アルプス深部に生息する“幻の陸貝”マイマイ属の一種の分子系統的研究
岡部 晋也	国立科学博物館	多角的アプローチによる南アルプスの陸生哺乳類の学術調査
富満 千尋	大阪公立大学理学部地球学科	南アルプス千枚岳の駒鳥池の形成史と環境変遷

募集

南アルプス学会 研究助成

南アルプス（静岡県内）を主な対象とする多様な研究活動を支援します

静岡県では「南アルプス学」の構築に取り組んでいます

「南アルプス学」とは、南アルプス地域の自然、文化、民俗、歴史、社会、産業などの多様な領域を横断する研究であり、南アルプス地域の風土を再発見するための学際です。あなたも「南アルプス学」の研究に関わりませんか？

対象となる研究

主として静岡県内の南アルプス地域において実施する研究で、自然科学、人文・社会科学等の分野を問わず、「南アルプス学」の構築に資する研究

応募資格・助成内容

①応募資格
①教育機関・研究機関等に所属する教員又は研究員
②大学・大学院生
③その他「南アルプス学」の探究に意欲・関心のある方

②助成内容
○1件あたり50万円以内の経費を助成
③採択時期
令和7年3月24日(木)まで

研究期間

○期間 採択年度内(令和7年度)まで
○最大3年度まで採択(※1年度に1回最多2回)

※1「南アルプス学」の構築に向けた研究活動として、南アルプス地域の自然、文化、民俗、歴史、社会、産業などの多様な領域を横断する研究であり、南アルプス地域の風土を再発見するための学際です。あなたも「南アルプス学」の研究に関わりませんか？

1件あたり
最大
50万円
まで

お問い合わせ

南アルプス学会 事務局
ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課
TEL: 054-260-7111 FAX: 054-238-5870
MAIL: musem@shizuoka.jp

南アルプス・自然と文化の資料集

・南アルプス情報のリンク集

南アルプスに関する情報を含むウェブサイトへのリンク集

・南アルプス学術データベース

南アルプスに関する研究成果をもとにしたリスト

・南アルプス学会研究助成の成果報告

研究助成採択者の研究紹介

研究助成の成果をはじめ、南アルプスに関する知見を集約し、その利用を促進するため、南アルプス学会ホームページに「南アルプス・自然と文化の資料集」を開設しました。

順次、情報をアップしていきます。



<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/shizenkankyo/1050519.html>

2025春 レンジャー 3大ニュース

皆さん、こんにちは！南アルプスみらい財団です。ここ数年で最大級だった残雪も融け、いよいよ夏山シーズンが始まります。

春の南アルプスをフィールドとして、稜線に、麓地域に、各所で奔走する財団職員＝レンジャーの活動の一部を「レンジャー 3大ニュース」として紹介します。

【1】新レンジャー活躍中

4月から、新たにレンジャー1名が財団のメンバーに加わりました。

小林レンジャーは、静岡県からの派遣職員で、高山病や寒さに強い耐性を持っている30歳独身。まだ配属後3か月ではありますが、既に現場巡視活動やイベントに奮闘中です。皆様、今後とも宜しくお願い致します。



残雪期、防鹿柵を立上げる小林レンジャー

【2】光の森学園で地域の子どもたちに授業

小中一貫校である「川根本町立光の森学園(千頭)」にて、光の森学園と井川小中学校の1～4年生を対象に出前授業を行いました。

南アルプスの成り立ちをテーマに、プレートの移動や山の隆起などについて、講義と体験を通して学んでいただきました。難しいテーマではありましたが、子ども達が楽しそうにしている姿を見ることができて一安心しました(>_<)。



南アルプスのめくれあがり隆起を実演

【3】ボランティアと防鹿柵の立上げ

雪融けと同じ頃、希少な高山植物をシカの食害から守るために防鹿柵を立ち上げます。ここ数年の中では雪解けが遅かった本年度も、6月上旬には柵を立ち上げることができました(三伏峠)。

夏シーズン以降は防鹿柵の修繕や養生などを行いますので、ボランティアの方々、またお力添えを宜しくお願いします！



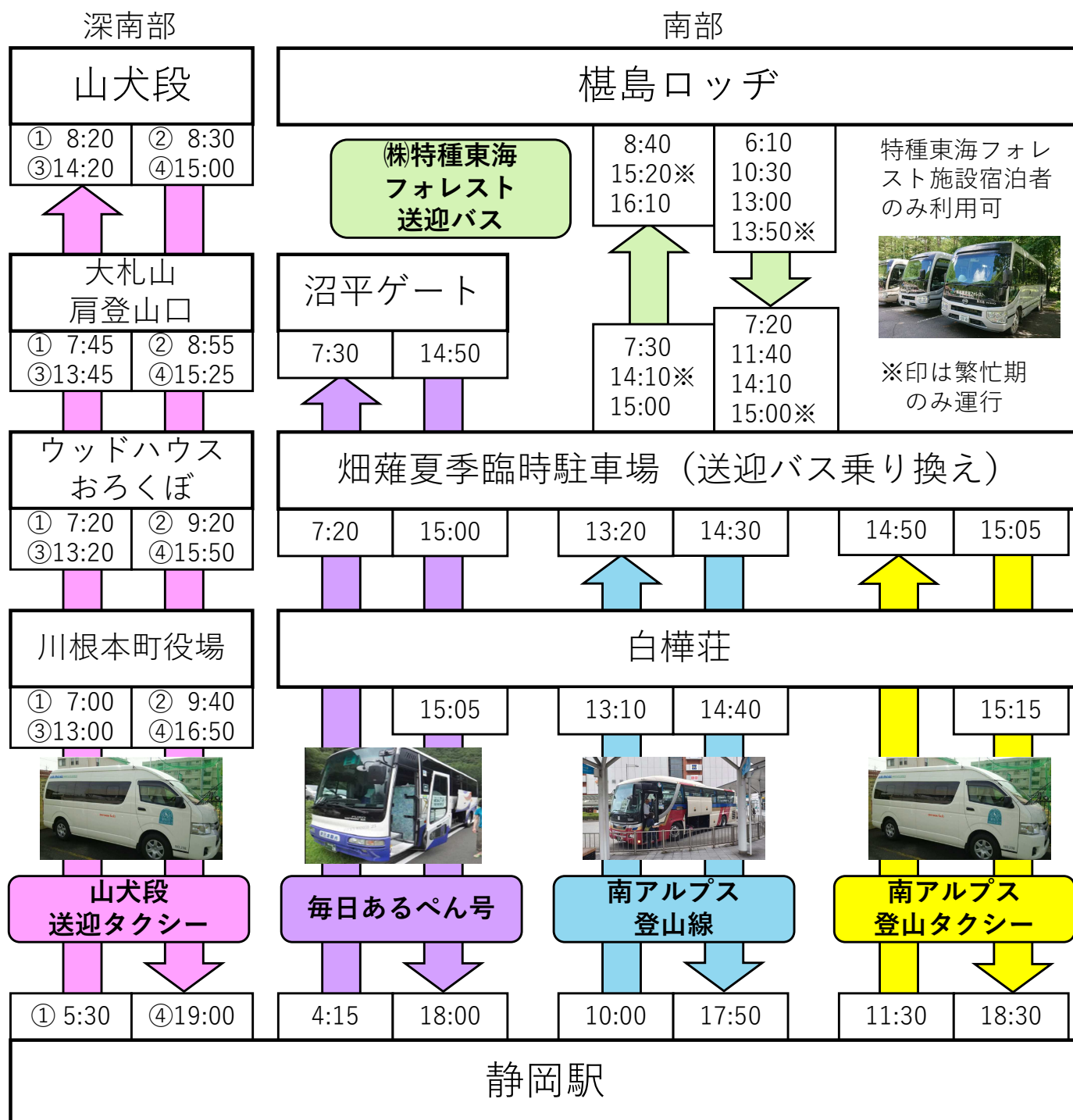
防鹿柵立上げ作業中

令和7年度の南アルプスへのアクセス

静岡県側からの南アルプスへの交通アクセス改善に向けて

令和7年5月12日に第6回南アルプス交通アクセス改善検討会議を開催し、今夏の南アルプスへのアクセスについて議論されました。

静岡市森林経営管理課から昨年9月に発生した林道東俣線11.2km地点での災害（崩落）について説明があり、関係事業者で検討した結果、今夏の交通状況は次のとおりとなりました。今夏の実績を検証し、より多くの方が南アルプスを訪れることができるよう、引き続き検討を行っていきます。



※山犬段送迎タクシー、南アルプス登山タクシーは（株）千代田タクシーが運行

毎日あるぺん号は、毎日新聞旅行が運行

南アルプス登山線は、しずてつジャストライン（株）が運行

※運行期間等、詳細は各社ホームページを御覧ください。

南アルプス環境保全基金について

美しい南アルプスを未来に引き継ぐため、南アルプス環境保全基金への寄附をお願いいたします。



基金を活用した静岡県の取組

生態系保全の取組

- ・ 高山植物を守る防鹿柵の設置
- ・ 高山植物種子保存プロジェクト
- ・ 高山帯における昆虫等の調査
- ・ 南アルプスの研究に対する支援



魅力発信の取組

- ・ YouTubeチャンネル
「みんなの南アルプス」
- ・ 環境学習サイト たからばこ
「南アルプスの宝箱」



※寄附の詳細については、静岡県くらし・環境部環境局自然保護課までお問い合わせください。

編集後記

静岡県 くらし・環境部 環境局 自然保護課

「南アルプスを未来につなぐ会」の主担当として、本号の構成等を担当した高塚です。令和5年度から担当となったため、活動期間の4年間のうち後半の2年4ヶ月を事務局として活動させていただきました。

この間、「南アルプスが輝く未来デザイン」策定や「いかわね会議」開催にあたっての御助言、定期シンポジウムへの御出演など、山極会長を始め、役員の皆様方から、つなぐ会の活動に対して多大な御協力を賜りました。心からお礼を申し上げます。

つなぐ会そのものは活動終了となりますが、その取組は、南アルプスを良い形で未来につなげていくという理念を共有する県や財団、学会に引き継がれていきます。この会報誌も、県が「南アルプス友の会」として継続しますので、引き続きよろしくお願いいたします。

静岡県内の南アルプスの各山小屋ではヘリコプターでの荷揚げが行われ、登山者を受け入れる準備が進み、7月第1土曜日（今年は5日）に寸又峡口で、7月16日に井川でそれぞれ安全祈願祭が執り行われ、開山となりました。昨年は天候不順で散々でしたが、今年は天気が安定して、しっかり活動できるというなあと思います。（高塚）

「南アルプス交通アクセス改善検討会議」担当の細萱です。今回、生意気にも編集後記を執筆させていただいていますが、実は私、自動車で行ける「南アルプスの入口『榎島ロッジ』」までしか行ったことがありません。

今年度、林道東俣線の崩落の影響で、いくつかのバスやタクシーの運行が見合わせとなってしまい、私のような「シティボーイ（自称）」には訪問が難しい状況となってしまいました。一日も早く災害が復旧し、交通アクセスの多様化が図られることを祈っています。実現した暁には、榎島ロッジから先にチャレンジしてみたいと思います。（細萱）

「みんなの南アルプス」への御意見をお寄せください。

会報誌「みんなの南アルプス」に対する御意見・御感想をお寄せください。今後の南アルプスでの取組や誌面作りの参考とさせていただきます。

送付先は、以下のとおりです。

・県自然保護課メールアドレス

【shizenhogo○pref.shizuoka.lg.jp(○を@に変更してください。)]

YouTubeで南アルプスの魅力を発信中！

○YouTubeチャンネル「みんなの南アルプス」

